

H23 午後 2 問題 1 を評価して

2016/4/8 by koyano

先ず、私が考える、問題文から読み取れる題意と執筆上での留意点を述べます。

設問ア

1. プロジェクトの特徴とコスト構成
 - 1.1 プロジェクトの特徴
 - ・プロジェクト目標は 2.1 で関係するもの(QCD 等)
 - プロジェクト目的は述べる。私の立場(PM)もここで述べる
 - 1.2 プロジェクトのコスト構成と特徴
 - ・コスト構成は・・・開発要員に係るコスト、開発環境に係るコスト、、・
 - 構成比率を入れる → 管理の重点項目となる

設問イ

2. コスト見積り方法と予算策定での考慮点 [具体的に]
 - 2.1 コスト見積り方法とコスト精度を高める工夫
 - ・見積り方法は・・・類似プロジェクト、生産性の基準値
 - ・高める工夫は・・・類似プロジェクトから類推、生産性の基準値をプロジェクトの特徴を踏まえて修正
 - コスト見積り方法は具体的な専門用語を使う
 - 2.2 予算策定での考慮点
 - ・コスト情報の精度が低い場合には予算に幅を持たせる
 - ・リスク管理の観点から予備費を設定する
 - 上記の場合はリスク管理の観点がいいる。

設問ウ

3. コスト差異を把握する仕組みと予算超過防止対策 [具体的に]
 - 3.1 コスト差異を把握するための仕組み
 - ・実コストと予算を比較する
 - ・差異がある場合、原因と影響度を分析し、完了時のコストを予測する。
 - 具体的なツール名を挙げたい
 - 3.2 予算超過を防ぐための対策
 - ・生産性の改善を実施
 - ・プロジェクトスコープの調整
 - 今後の後工程での対策とする。

本論文は一回目の評価者のコメントを受け、提出者が改善した版の論文です。従って評価コメントも簡易になっています。

A の評価とさせていただきます。

総評 合格圏内のレベルです。

先ず一読しました。いい感じで流れているなという印象でした。

次に、問題文と設問を側に置きながら読み進みました。題意にも沿った論文になっています。

2章は書き過ぎ(時間内でこんなには書けない)なので、実試験ではシンプルにする必要があります。コスト見積り法3つの説明、略字のフルネーム化、数式、FP法のメリットはカット対象にした方が良いでしょう。

構想時間30分、書下ろし時間90分で2700字書くとすると、30字/分ですから上記カットすると5分は短縮できます。その分を最後の見直しに充てられます。

専門知識(WBS/EVM/三点見積り)も披露され進捗・コストに言及しているのも良いです。素人が読むと全く分かりませんが、採点者はPMのプロなので略語使用を気にする必要はありません。

表現では、策を立てる場面では過去形は少し配慮が有ってもよいと感じます。実施し反省する場面では過去形になります。

IPA の PM 論文試験では、計画段階の場面が実行段階よりもよく多く出題されます。

これは明らかに、IPA の考える PM 像は PMBOK の計画重視する PM 像から来ています。(「アジャイルもあるじゃないか。」と問題文や設問に異議を唱えてもしかたがありません。)

今回を含め3回提出の中では一番良い論文になっています。

平成23年問1 評価票				フォーマット変更3/21	
条件	内容	重み	評価	コメント	備考
条件1	1)設問アの字数制限「800字以内」が守られているか	/	○	問題なし【800】	1つでも該当すればD
	2)設問イの字数制限「800字以上1600字以内」が守られているか		○	問題なし【1600】	
	3)設問ウの字数制限「600字以上1200字以内」が守られているか		○	問題なし【775】	
条件2	1)設問アを反映している見出しか	2	2		
	2)設問イを反映している見出しか	3	3		
	3)設問ウを反映している見出しか	3	3		
条件3	1)ア見出しに合致した内容になっているか	4	3		
	2)イ見出しに合致した内容になっているか	5	4		
	3)ウ見出しに合致した内容になっているか	5	4		
	4)ア問題文で問われている内容になっているか	5	4		
	5)イ問題文で問われている内容になっているか	6	5		
	6)ウ問題文で問われている内容になっているか	6	4		
条件4	読みやすい丁寧な字で記述されているか				
条件5	PMの立場を明確にしているか	1	1		
	PMはステークホルダをコントロールしているか	2	2		
条件6	1)結論が先に記述されているので分かりやすいか	4	4		
	2)理由が記述されているので分かりやすいか	4	3		
	3)どのようにも取れる曖昧な表現はしていないか	4	3		
	4)設問イ、具体例が記述されているか	3	3		
	5)設問ウ、具体例が記述されているか	3	2		
条件7	1)アの記述量は空行3行以下まで記述されているか	3	3	0空行 【800】	
	2)イの記述量は最低字数制限の1.2～1.5倍程度は記述されているか	3	2	960～1200 【1600】	
	3)ウの記述量は最低字数制限の1.2～1.5倍程度は記述されているか	3	3	720～900 【775】	
	4)アイウの各段落の記述量が適切であるか	3	2		
条件8	1)一文が長からず読みやすいか	4	3		
	2)「です/ます」、句読点の禁則など統一され最低限の記述スタイルが守られているか	2	2		
	3)修飾部、複文の入れ子構造などを多用せず、気にならないか	2	2		
	4)受け身表現を多用せず、気にならないか	1	1		
条件9	十分な知識が記述されているか	3	3		
	合計	84	71	85%	
(A:100～75 B:74～60 C:59～45 D:44～0)					

A. 良い個所についてコメントします。

1. 3 ページ目の 31, 32 行目、「1.5 人月のバッファを頂くことを事業部に交渉し、承認を得た。」

⇒コンティンジェンシー予備費は、上司の了解をとる。この記述は効いています。
実際に仕事で使用しているのでしょうか、具体的に現実味があります。

2. 2章ではEVMを行うにはPMBOKでいう、

- ・WBS作成
- ・アクティビティ定義/ /アクティビティ所要期間見積もり/
- ・コスト見積もり/予算設定

のプロセスを追ってプロジェクト予算(PV)を出していることが良く述べられています。
更に、見積りリスクを三点見積りに組み入れるなど、専門知識が披露されています。

3. 問題文にある「プロジェクトの完了時のコストを予測する。」に、本論文ではEACをもってきて良く問題文にも沿っています。

B. 次に、マイナス要素の強い個所についてコメントします。

特にありません。

C. 最後に、チョットした表現でよくなる個所についてコメントします。

1. 「3. 1. コスト差異を把握するための仕組み」

⇒前半部は EVM を導入した過去表現になっています。EVM を導入するメリットの表現にするべきです。

補足 2.3 は WBS の作成が予算見積りに直結しているので、過去形表現で問題ありません。

2. 「3. 2. 差異を把握した場合の予算超過のための対策」

⇒改行・インデントが少なく読みづらい。また文章見直しで修正入れる場合も修正バッファがないので、切れ目となる「どのように要員を投入すべきか・・・」で改行・インデントを入れたい。

以上